

久喜市立のぞみ園 事業報告

平成28年度事業計画に基づき、以下の事業を行いました。

1 利用率の向上

定員10名に対して、現員も約10名での利用がありました。幼稚園、保育園と併用して利用する子どもが4名いたこと、6月からマンツーマンでの見守りが必要な1歳の子どもが入園したことにより、定員以上の受け入れが難しく、利用率が伸びませんでした。

年間の利用率は65.4%でした。

(1) 定員 10名

現員 6月 11名、12月 9名、他の月 10名

(2) 入退園等

入園3名（4月1日 男児1名 6月6日 女児1名 1月16日 男児1名）

退園3名（8月31日 男児1名 11月30日 女児1名 3月31日 男児1名）

（退園理由…幼稚園への移行、引越しのため他療育施設へ転園）

卒園4名 男児4名 就学先…久喜市立久喜小学校特別支援学級 2名

久喜市立栢山小学校特別支援学級 1名

埼玉県立宮代特別支援学校 1名

(3) 併用利用の状況

年長児 3名 幼稚園、保育園との併用（久喜市立中央幼稚園、幸手あゆみ第二幼稚園、久喜市立中央保育園分園）

年中児 1名 幼稚園との併用（五霞幼稚園）

(4) 年齢構成

区分	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	平均
男	0	0	1	0	4	4	5.2歳
女	1	0	0	0	0	0	1.0歳
計	1	0	1	0	4	4	4.8歳

(5) 障害者手帳の所持状況

区分	療育				身体	精神	なし	計
	(A)	A	B	C	1級	2級		
男	1※1	0	3	2	1※2	1	2	9
女	0	0	0	0	0	0	1	1
計	1	0	3	2	1	1	3	10

※1、※2は一人が両方所持

(6) 利用状況

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開園日数	20	19	22	20	22	20	21	20	19	19	20	22	244日
延利用者数	136	135	164	137	126	139	127	122	107	117	132	154	1,596人
利用率	68.	71.1	74.5	68.5	57.3	69.5	60.5	61.0	56.3	61.6	66.0	70.0	65.4%

2 療育支援

(1) 基本的な生活習慣の自立支援（移動、着脱衣、排泄、食事等の支援・介助）

個別支援計画に基づいて支援を行いました。一人ひとりの障害や発達の様子を見ながら声かけや援助を行いました。自分でできた時には一緒に喜びを共感したり、少しずつステップアップしていけるように工夫をしながら支援を行いました。日常生活に必要な動作や行動を自分で行う姿が見られるようになってきました。

(2) 療育活動

<集団療育活動>

ア 「遊び」を通じた活動

子どもの発達状況や興味に応じながら、様々な遊びを行いました。勝ち負けや順番など、ルールを学ぶことを目的とした遊び（カードめくり、椅子取りゲーム）や、友達とやりとりができる遊び（タッチリレー、お店屋さんごっこ）を設定して行いました。遊びの幅が広がり、友達への興味が出てくるなどの成長が見られました。

設定あそび

- ・運動あそび ・音楽あそび ・体操 ・リトミック ・感覚あそび ・劇あそび
- ・ふれあいあそび ・散歩 ・プールあそび（7月～8月）等

イ 体験活動

(ア) 誕生会や運動会などの行事をすみれ保育園と合同で行ったり、園庭で遊ぶ時に保育園の園児と一緒に砂場で山を作って遊んだり、かけっこに混ぜてもらうなど関わりを持ち、交流を行いました。のぞみ園園児が保育園の園児の行動を真似るなど、園の子ども達にとって刺激となったり、友達とのやりとりを学ぶ良い機会になりました。

(イ) 園外療育では、親子で「鉄道博物館」に出かけました。社会のルールやマナーなどを知ることができたり、親子で楽しい時間を過ごすことができました。

ウ 季節に即した行事

- ・夏のお楽しみ会 ・七夕・親子運動会（すみれ保育園と合同で実施）
- ・年末お楽しみ会（クリスマス会） ・もちつき ・豆まき ・ひなまつり

<個別療育活動>

ア 定期的なアセスメントの実施

遠城寺式乳幼児分析的発達検査法を使用して、発達や成長を確認しました。また、言語聴覚指導（ST）や理学療法指導（PT）、心理相談、作業療法指導（OT）で受けたアドバイスとも照らし合わせながらアセスメントを行ったり、支援の仕方や遊びの内容を考えました。

イ 個別支援計画の作成と見直しの実施

前期、後期と2回に分けて計画を作成しました。また、評価については職員全員で様子について意見を出し合い、モニタリングを行いました。

ST指導

月1回、言語聴覚士が来園し、言葉を発していなくても子どもが出しているサイン（表情や仕草、行動等）を見逃さないように、気持ちを受け止めて言葉にして返していきましょう、というコミュニケーションの基礎を主としたST指導を受けました。また、親と子どもと一緒に遊ぶ姿を通して母親と子どもの関係性や、関わり方のポイント、発達の段階な

ども学び、把握することができました。

<内容>

- ・ 10:00～11:30 親子で遊ぶ
- ・ 11:30～12:30 保護者指導
- ・ 13:30～16:00 職員ミーティング

<対象児・人数>

- ・ 全園児
- ・ 1回につき2～3名

PT指導

月に1回、理学療法士が来園し、肢体に障害のある子どもを対象に指導を受けました。肢体の状態を把握し、生活や遊びの中に指導を受けた動きや運動を取り入れて、支援を行いました。子ども達が楽しみながら体を動かして、機能の向上や維持を図れるように配慮しました。

<内容>

- ・ 9:00～9:30 職員との打ち合わせ
- ・ 9:20～10:40 指導（一人約20分ずつ）

<対象児・人数>

- ・ 肢体不自由のある幼児
- ・ 1回につき3名程

心理相談

年間6回、臨床心理士の先生が来園し、子ども達の様子を見てもらいながら、職員が関わり方や支援の方法などの指導やアドバイスを受けて、保護者との面談を行って、保護者が発達や行動についての悩み、疑問などについてアドバイスを受けました。

<内容>

- ・ 9:00～9:30 職員との打ち合わせ
- ・ 9:30～12:30 指導者による参観
- ・ 12:30～15:20 保護者相談
- ・ 15:30～16:00 職員ミーティング

<対象児>

- ・ 全園児

OT指導

作業療法指導では、母子、職員が指導を受けました。筋力アップを目的とした運動の仕方や、手指の使い方、就学についての相談などを、様々な視点からアドバイスを受けました。

(3) 健康管理支援

ア 毎月1回、身体測定（体重、身長）を行いました。

イ 感染症が流行る時期には、検温などの体調管理や、室内の温度や湿度調節、衛生面のチェック、衣服の調節を意識して行いました。咳や発熱、軽い風邪の症状が出る子どもはいましたが、インフルエンザ、胃腸炎などは園内で流行ることはありませんでした。

(4) その他

ア 隣接するすみれ保育園と月1回連絡調整会議を行いました。行事や給食の提供、交流など

について協議を行い、連携を持ちました。

イ 見学者、研修生、ボランティアの受け入れを行いました。

ウ 発達が気になる子ども達が通う「ひよこ教室」の子ども達と交流会を企画、実施しました。

ひよこ教室の子どもへの参加がなく残念でしたが、来年度の実施の仕方などを検討し、次回に繋げたいと思います。

エ 見学者の受け入れは、11件、32名でした。

オ 研修生の受け入れは、12校、21名でした。

カ ボランティアの受け入れは、15回、15名でした。

3 自主事業

(1) 延長療育

9:00～9:30、15:30～16:00の間、年間延べ277名が利用しました。仕事を持つ保護者の方が数名、ほぼ毎日、朝の時間に利用しました。今後も、必要に応じて行っていきます。

(2) 保護者登園日を利用した勉強会の実施

ア グループ親子登園日を利用して勉強会を実施しました。1回につき、2～3名の保護者の方が参加しました。

6月24日「生活のリズムについて 寝る、食べる、遊ぶ」

家庭での子ども達の様子を聞きながら、規則正しい生活の大切さについての話をしました。家庭ではスマートフォンやタブレット、携帯ゲーム機などで遊ぶ子が多く、遊び始めると終わりにすることが難しい、睡眠時間に響いてしまう、というような話が聞かれました。

9月23日「就学について」

年中児、年長児の保護者を対象に、支援学校や支援学級についての話をしました。また、各保護者の意見を聞いたり、情報交換を行ったりしました。

1月27日「園での様子をビデオで観てみましょう」

家庭での様子と、集団の中に入った時の園での様子の違いを観てもらいました。家庭の中では母親に甘えてできないことも、園では自分でできる場所を実際に見て、「園では自分で行っているところを観て安心しました」と感想をもらいました。

イ 保護者、職員間で情報交換を行ったり、様々な知識を学ぶ場として今後も実施していきます。

(3) 就学のための相談会（特別支援学級や学校の見学、卒園児保護者と在園児保護者との座談会）

ア 久喜特別支援学校、久喜市立栢山小学校の見学を行いました。

イ 9月には、現在久喜市立江面第一小学校の特別支援学級に通学している、のぞみ園卒園児の保護者の方に協力していただき、就学座談会を行いました。

ウ 見学や座談会を通して就学先や、放課後デイサービスの情報を得ることができました。また、先輩の保護者から就学までにどのようなことを身に付けておくと良いか等、様々なアドバイスをもらい、とても参考になりました。

(4) 歯科検診・ブラッシング指導

11/17、啓和会と久喜市歯科医師会の共催による歯科検診・ブラッシング指導を「いちよの木」にて実施しました。参加者は4名（園児2名、保護者2名）でした。指導を受ける

のが2回目になる環境の変化に弱い子どもの保護者の方より、慣れない場所でも口を開けて歯を見せることが少しずつできてきている、感想をもらいました。

(5) 巡回指導の実施

埼玉葛北障害者生活支援センターの職員が来園し、支援についての具体的なアドバイスをもらいました。また、子ども達を診る視点など、職員にとって新たな気づきがありました。

4 重点事項

(1) 療育支援の充実

個別支援計画を作成、支援、評価をし、それをもとに改善、実行しました。職員や、療育指導者、保護者の間でも支援方法や、様子の共有を図りながら支援を進めることができました。

(2) 職員の資質向上

ア 行事の日程との兼ね合いなど、外部研修にはなかなか参加することができませんでした。
イ 虐待防止の意識を持つために法人の虐待防止研修に参加したり、職員間で虐待防止チェックシートを使って現在の支援を見直したりしました。

<職員の研修>

※外部研修

研修名	主催	期日	参加人数
発達障害ステップアップ研修	埼玉県社会福祉協議会	9月12日 11月8日	1名
障害者施設感染症対策研修会	幸手保健所	11月17日	1名

※内部研修

研修名	期日	参加人数
安全運転研修	8月26日	3名
理事長講話	9月15日	1名
虐待防止研修 (のぞみ園)	9月23日	4名
虐待防止委員会内部研修：虐待防止に向けての取り組みについて	12月5日	2名
介護技術研修	1月18日	1名
虐待防止研修	3月4日	2名

(3) 危機管理の体制整備

ア 災害が起きた時に、まずは隣接するすみれ保育園との連携が必要になるため、災害が起きた時の伝達の仕方や避難場所などについて協議を行いました。また、月1回行っている避難訓練をすみれ保育園と合同で行いました。

イ 家族に緊急連絡先の再確認を行ったり、災害や救急時に早い対応がとれるよう、職員間でも避難訓練時に体制の確認を行いました。

(4) 地域の関係機関との連携

ア 幼稚園や保育園と併用して利用している子どもがいるため、併用先へ訪問したり連絡を取り、様子や対応の仕方などについて共有を図りました。

イ 就学先へ訪問し、子どもの様子や支援してきたことについて引き継ぎを行いました。